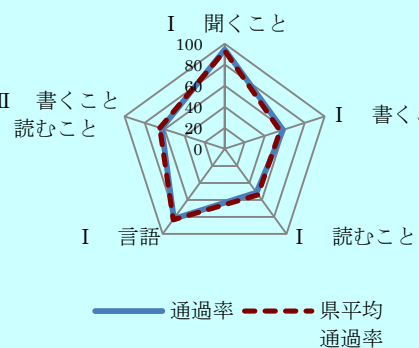
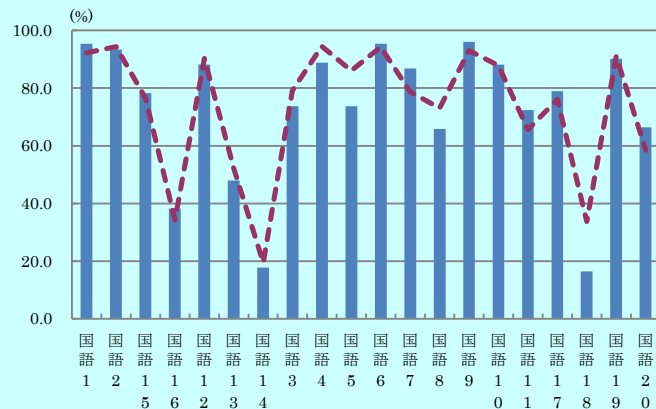


## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.6% , 県 73.6%)

領域別平均通過率



教科書の平均通過率



## 本年度の結果について

### ○全体的な傾向

本年度のタイプⅠ・Ⅱの通過率は、タイプⅠは 75.0%、タイプⅡは、63.0%であった。この結果から、タイプⅠの中で特に課題として挙げられるのは、「読むこと」の領域(通過率 51.3%)であり、タイプⅡでも「読むこと」(63.0%)の領域といえる。文章の展開に即して心情を読み取ったり、必要な情報を読み取ったりすることを苦手としている傾向が見られる。

### ○昨年度の課題への取り組み結果

昨年度は、「読むこと」の領域を課題として取り組んだが、タイプⅠ・タイプⅡの通過率が両方とも伸び悩み、継続課題となっている。

## 重点課題

### 【課題1】

文章の展開に即して、「登場人物」の心情を的確に捉えることに課題がある。話の展開を理解し、主題に関わる登場人物の心情を理解できていない生徒が 82.2%。21.1%の生徒が無解答であった。

### 【課題2】

目的に応じて文章中の必要な情報を読み取り、根拠を明確にした記述をすることに課題がある。情報を適切に取り出し活用することや問題の条件を満たすことができない生徒が 83.5%。4.6%の生徒が無解答であった。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

### 【課題1】

登場人物の心情を理解するために、心情描写にあたる個所に線を引かせたり、ノートに抜き出させたりして、まず表現を把握させてから、その気持ちを想像させる。次に、表現を基に読み取った心情を文章にまとめさせていく指導を行う。

### 【課題2】

見本となる書き方の文章を熟読させ、その見本の文章形態に沿った書き方の練習を反復させる。根拠を明確にした文章を書かせる指導を重視し、資料や文章からその根拠にあたる個所を抜き出しまとめさせる授業を定着させる。

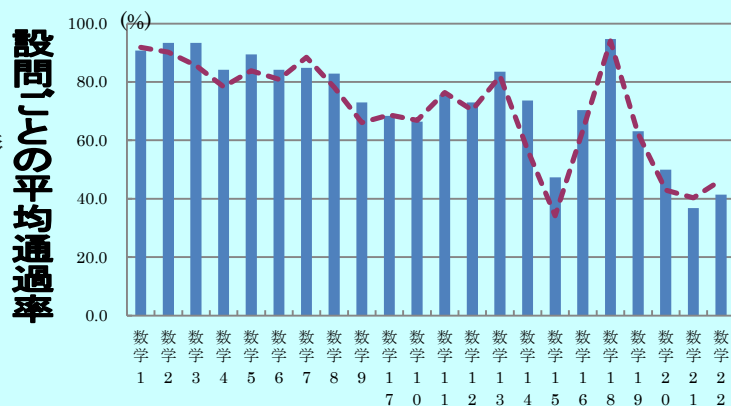
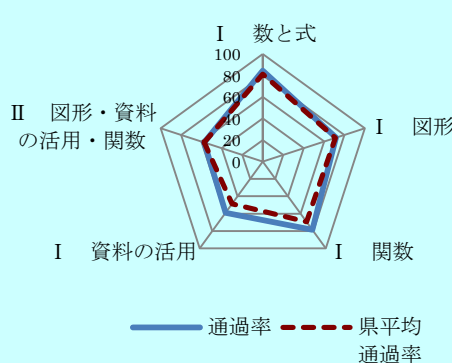
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 学年末試験	
目標値						50%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 学年末試験	
目標値						60%	
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校 73.7%，県 70.4%）

領域別平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体的な傾向について
 

数学の結果において、タイプIは78.5%、タイプIIは57.2%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、一方では日常的な事象を数学的な課題として捉え、基礎的・基本的な内容を活用し、課題を解決する力が不十分であると考えられる。
- 昨年度の課題への取組の成果と課題
 

昨年度は、座標平面上の点をx座標とy座標の2つで表すときの軸の向きがあいまいであり、判断ができていなかった。比例の式から対応する表を作ることを、段階を追って練習させ、定着を図る取組を行った。その結果、通過率は52.0%から73.7%へ上がった。また、表により与えられた数値や情報を読み取り、自分の考えを数学的な表現を用いて説明することができる力については、関連する設問の通過率は37.4%から41.4%となっており、文章を理論立てて書く力は依然として不十分であると考えられる。

### 重点課題

#### 【課題1】

「11(1)比例のグラフの理解」座標平面上に点で表されたグラフを見て、yがxに比例しているとみる根拠となる特徴を説明する設問で、通過率が36.8%であった。誤答としては、点が一つの直線上に並んでいることのみ記述しているものなどが33.6%と多かった。これは、比例のグラフの特徴として「原点を通る」ことが正確に理解できていないことの結果である。

#### 【課題2】

「11(2)問題解決の方法」yがxに反比例していることから、式や数値を用いて、グラフ上に示されていない数値を調べる方法を説明する設問で、通過率が41.4%であった。誤答としては、「式を求めればよい」「表をかけばよい」などについてのみ記述しているものが11.2%であり、また、無答率が27.6%と多かった。これらのことから、説明する時の手順を、文章で理論立てて書く力が不十分であると考えられる。

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

#### 【課題1】

「比例」のグラフと「反比例」のグラフ、あるいは「比例」のグラフと「1次関数」のグラフを比較させ、それらの特徴を整理することで、グラフの特徴の正確な理解を図る。また、小グループを活用して、式・表・グラフそれぞれにおける特徴を説明し合うような場面を仕組むことで、関数の特徴を表現する力を育む。

#### 【課題2】

説明をする場面で、「事実（具体）」「考察」「結論」それぞれの段階に沿って説明することを意識させるために、1つの問題解決場面で、解決に必要な条件を出し合える場面を授業の中で作ったり、各段階を小問形式で考えさせたりするなど、思考の支援をする。

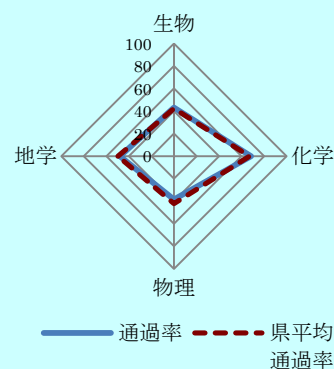
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 学年末試験	
目標値						50%	
実施後数値							

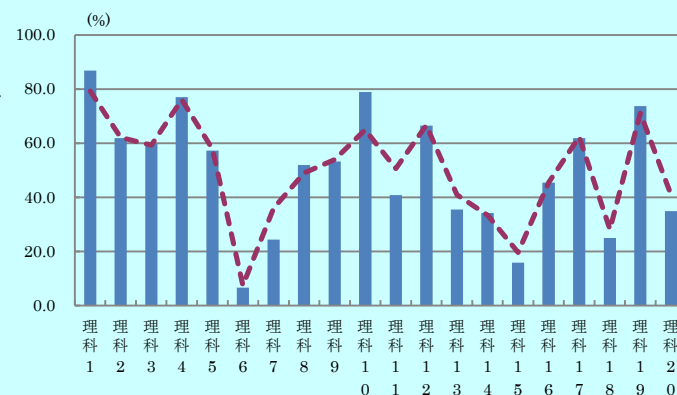
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 学年末試験	
目標値						60%	
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校 49.6%，県 50.2%）

領域別平均通過率



設問1の平均通過率



## 本年度の結果について

### ○全体的な傾向

理科の結果において、タイプⅠは50.5%、タイプⅡは48.1%の通過率であった。この結果から、基礎的、基本的な内容について、理解が不十分であり、知識も定着していないことがわかる。その一方で、タイプⅠとタイプⅡの通過率の差が大きく見られないことから、基礎的・基本的な知識の習得が十分ではないことがわかる。

### ○昨年度の課題への取り組み結果

昨年度は、グラフの内容の読み取りとその活用に課題があり、その設問（タイプⅡ）での通過率は15.4%であった。グラフを正しく読み取らせるために、縦軸横軸が何を表しているのか注目させるとともに、なぜそう考えたのか説明させる場を仕組み、言語活動をとり入れた。その結果、独立変数と従属変数を問う本年度の設問ではタイプⅠではあるが通過率は35.5%となった。また、被子植物の分類について説明する設問（タイプⅡ）での通過率は36.6%であったが、今年度生徒の対話文から被子植物と裸子植物の花の違いについて答える設問（タイプⅠ）では通過率が6.6%であった。知識の「なに」を「どのように」活用し説明するかということに関しては、依然として課題が残る。

## 重点課題

### 【課題1】

「3（1）被子植物と裸子植物の花の違い」アブラナの花とマツの花のつくり注目し、比較することでマツの花にはないものを図から選ぶ設問では、通過率が6.6%であった。被子植物と裸子植物では花のつくりの「なに」が「どうちがう」のか正しい理解が不十分であると考えられる。

### 【課題2】

「6（3）圧力に関する身近な現象」スキー板をはかない場合とはいた場合の雪に対するスキー板の沈み込みの違いに注目し、その違いが生じる理由を説明する設問では、通過率が15.8%であった。日常生活で生じる現象を、科学的用語を用いて説明するのに「なに」が「どうなった」という「結果」とその「要因」を関連付けて考えることが不十分であると考えられるとともに、圧力と面積、押す力の関連付けの理解が不十分であると考えられる。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

### 【課題1】

被子植物と裸子植物の花のつくりのちがいを図を比較させ、その特徴（情報）を整理させるとともに、「なに」が「どうちがう」のか説明させる場面（言語活動）を仕組み、知識の定着を図る。

### 【課題2】

理科の教科を日常生活と関連付けて学ばせるとともに、その現象がなぜ起こるのか、科学的用語を正しく理解させ、その用語を活用し、記述させたり説明させる場面を設定し、知識の習得と活用を図る。

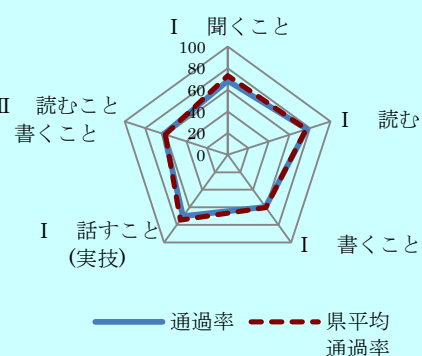
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 学年末試験	
目標値						50%	
実施後数値							

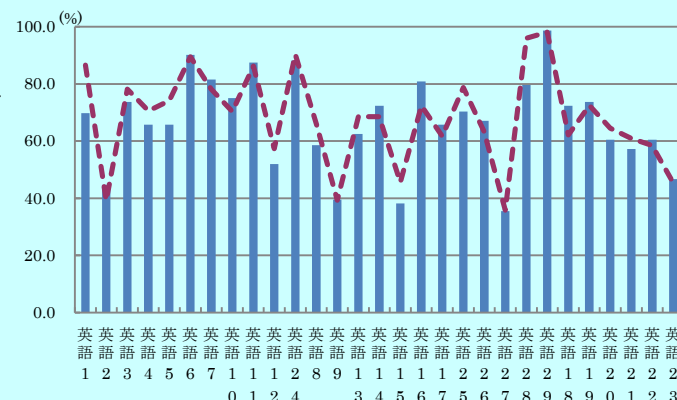
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 学年末試験	
目標値						50%	
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 66.7%, 県 68.2%)

領域別平均通過率



教科書の平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体的な傾向  
タイプⅠの通過率が68.0%, タイプⅡが61.8%である。全体的に基礎的・基本的な内容の定着に課題がある。領域別でいうと「書くこと」に課題が大きく、中でも、基本的な文のきまりを理解した作文を書くこと、会話の場面に応じて適切に英文を書くことが苦手である。
- 昨年度の課題への取り組み結果  
昨年の課題は①根拠となる英文の読み取ること ②基本的な文のきまりを理解した作文を書くことであった。今年度は①73.7%, ②39.5%であり、①については改善されているが、②については改善されていない。②について課題があるのは、語順の概念の理解が不十分であることや、その語順を使い慣れていないことなどが考えられる。

### 重点課題

#### 【課題1】

実技・応答(3)人物がスポーツをしている写真を見て、「彼女は何をしていますか」という問いに答える問題。英語の質問が疑問詞から始まり現在進行形になっていることを理解できていない。また、一問一答で英語の質問に答える活動に慣れていない。(通過率 35.5%)

#### 【課題2】

大問【9】(2) 2人の会話文の途中が空欄になっており、2語以上の適切な英語を入れて会話文を完成させる問題。接続詞が読み取れていない、もしくは読み取れていても動詞を適切な形に直せてない文法ミスによる間違いである。(通過率 38.2%)

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題1】

導入や教科書本文の読解において、疑問詞で始まる疑問文や Yes / No で答える疑問文を使って発問し、文法的に正しい答え方を理解させる。  
授業中に、動作や絵で実際の場面を視覚的に示し、現在進行形と現在形を使う場面の違いを明らかにし、どんな場面で現在進行形を使うのか理解させる。  
文法を学習した後、形態や時制の違う疑問文を次々と発問し、クイックレスポンスで定着を図る。

#### 【課題2】

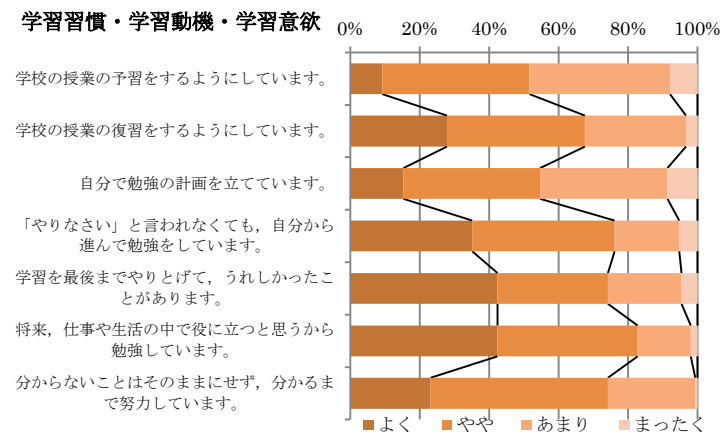
教科書本文の読解において、文と文をつなぐ接続詞に注目させ、文章全体のまとまりについて意識させる。  
授業中の指示や発問、課題のチェックを通して主語と動詞の対応、時制による動詞の変化を意識させ、何度も見直しをさせることで定着を促す。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 学年末試験	
目標値						50%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 学年末試験	
目標値						60%	
実施後数値							

# 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

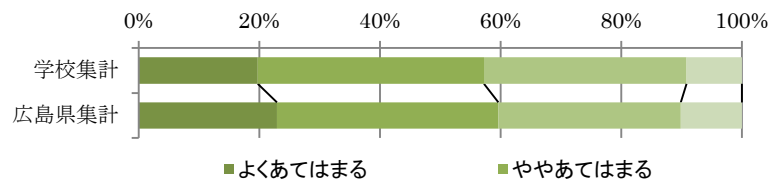
## （1）生活・学習



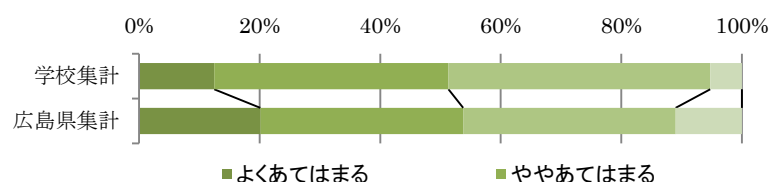
生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「学習習慣・学習動機・学習意欲」について、「自分で勉強の計画を立てています」を肯定的に評価した生徒が約50%と少ない。	①計画を立てることの意義を説明する。 ②計画を立てて勉強する取組のやり方を指導する。 ③勉強時間を確保するために、個別相談を行い、生活時間の見直しを図る。	2	70%	アンケート	3学期		

## （2）教科

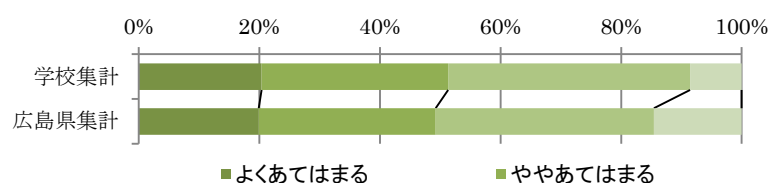
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



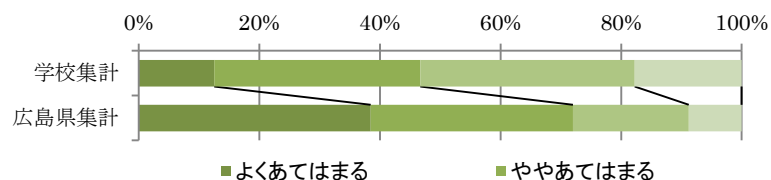
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業はよく分かります



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしている生徒が少ない。(57.2% , 昨年度 47.9%)	授業の振り返りを行う中で、本時の学習で学んだことは日常のどの場面で活用できるかも考えさせる。また、そのような生徒の振り返りを他の生徒に紹介していき、他の生徒の意識化を図る。	2	70%	生徒アンケート	12月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明しています。」と肯定的に回答した生徒がおよそ半数であった。(51.3%←昨年 43.1%)	授業では、小グループ活動を行い、自分と友だちの考えの共通点や相違点を比較しながら伝え合わせ、そこでの気づきを、最後の「まとめ」「振り返り」を書かせる活動につなげる。	2	60%	生徒アンケート	12月		
理科	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりする生徒が少ない。(51.3%)	予想、結果、考察の内容を個人や全体で交流させるなどの、言語活動の場を設ける。	2	70%	生徒アンケート	12月		
英語	英語の授業はよく分かりますと答えた生徒が少ない(46.7%)	どこでつまづいているか段階的に把握する。そのため、授業の振り返りで質問や疑問点を書かせてまとめ、次の授業の復習に使う。	2	60%	生徒アンケート	12月		